

基準9 教育研究環境

9-1 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

《9-1の視点》

9-1-①校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

9-1-②教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

(1) 9-1の事実の説明（現状）

- ・ 図 9-1-1 に示すとおり、本学の基本理念の一つである「理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備」に基づき、大学設置基準を十分に満たす「校地・校舎等の施設および設備」を整えている。また、キャンパス内には、日本工学院八王子専門学校も設置している。
- ・ 大学施設の概要を表 9-1-2、設備の概要を表 9-1-3 に示す。

図 9-1-1 キャンパスマップ

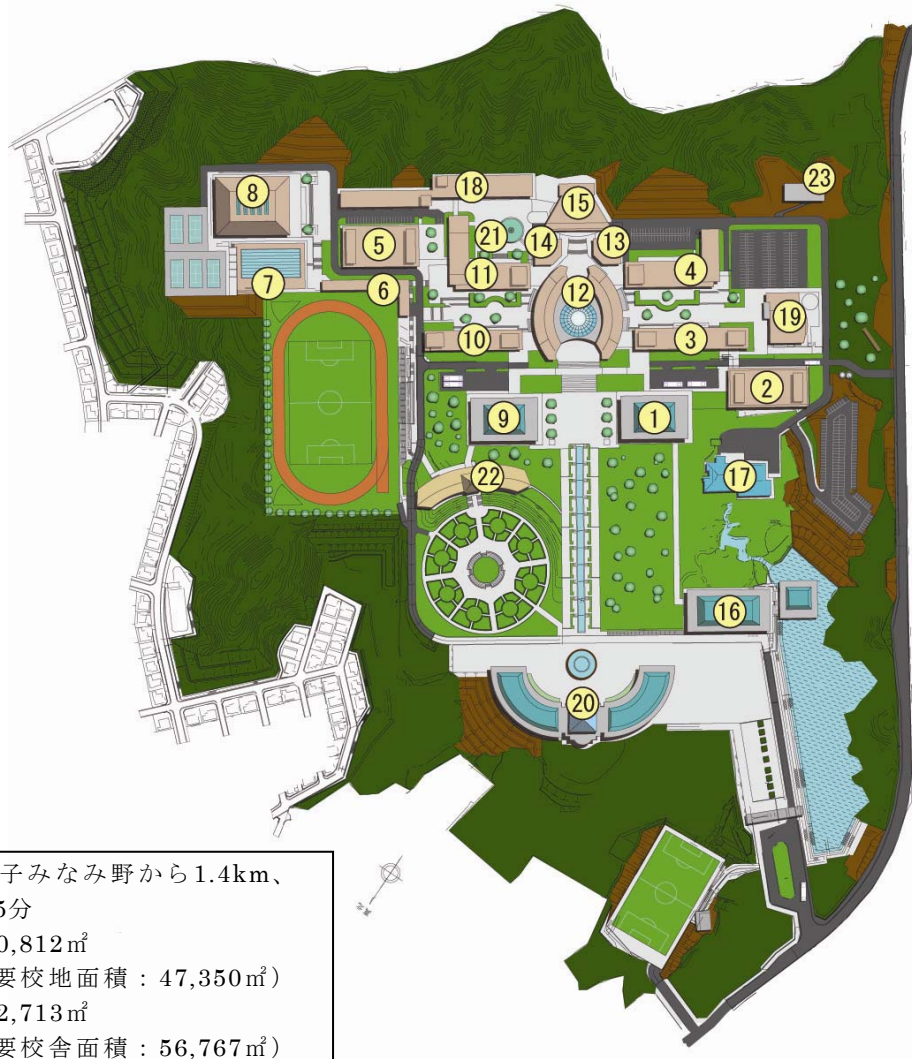


表9-1-2 施設の概要

地図番号	施設名	主要施設
1	図書館	図書館、ネットワークセンター、プリントショップ、閲覧室、メディアロビー
5	実験棟 A	実験室
6	サークル棟	部室、サークル室
8	体育館	アリーナ、ボウリング場、稽古場、トレーニングルーム
10	講義棟 A	教室
11	講義実験棟	実験室、演習室、教室、計算機室、実験工房
12	研究棟 A	教室、研究実験室、教員研究室
14	講義棟 D	教室
16	本部棟	理事長室、学長室、役員室、会議室、法人本部、大学事務局
18	研究棟 C	共通演習室、プロジェクトルーム、研究実験室、教員研究室
19	メディアホール	ホール（大教室）、映像スタジオ、編集スタジオ、音声スタジオ
20	片柳研究所	教室、研究実験室、教員研究室、クリエイティブラボ、コンテンツテクノロジーセンター、メディアテクノロジーセンター、バイオナノテクセンター、ユビキタス IT 研究センター、エンコードセンター、産学官共同研究センター、研究協力部
21	カフェテリア	ファーストフード店
22	FOODS FUU	学生食堂、インターネットカフェ、PC サポートセンター、購買
	学生会館	学生寮（敷地外・八王子みなみ野駅前）

表9-1-3 設備の概要

	設備等
教室	<ul style="list-style-type: none"> 学部学生全員がノートパソコンを必携しているため、35教室をネットワーク対応型教室として整備し、本学が目指す「ICTに精通した技術者や多様なエキスパートの育成」の場としての環境を整えている。 14教室を語学教室としており、本学が目指す「外国語の実践教育」の場として活用している。
実験室、演習室	<ul style="list-style-type: none"> 本学が目指す「先端技術教育による実社会に役立つ技術者や多様なエキスパートの育成」の場として、実験、演習、プロジェクトを通じて具体的に知識や実務のスキルを身に付ける場として活用している。
計算機室	<ul style="list-style-type: none"> 100台のパソコンを設置し、主にノートパソコンなどで利用できないソフトウェアをワークステーションを使い講義を行っている。 授業で使用しない時間帯はレポートの作成、自習のために学生に開放している。
研究実験室	<ul style="list-style-type: none"> 本学が目指す「学生の個性を重視した教育の実施」の場として、主に学部4年次生と大学院生が、指導教員から個別指導を受けながら研究を行う場として活用している。

① 図書館

- ・図書館は、収納可能冊数約 15 万冊の書架と 595 の閲覧席およびグループ室 2 室、個室 9 室、視聴覚ブース 9 室を設置している。
- ・蔵書数は、平成 18 年度において約 114,000 冊（和書 84,000 冊、洋書 30,000 冊）、雑誌は 480 種（和書 316 種、洋書 164 種）、視聴覚資料は 2,920 タイトル、電子ジャーナル 6 種を契約している。
- ・蒲田サテライトキャンパス図書室においては、起業家育成を目指した経営学や経済学、財務等の蔵書を中心に収集をしており、現在のところ蔵書数は約 3,624 冊（和書 3,592 冊、洋書 32 冊）、雑誌は 65 種（和書 43 種、洋書 22 種）、視聴覚資料は 64 点、電子ジャーナル 2 種を契約している。

② 情報サービス・IT環境等

「ICTに精通した技術者や多様なエキスパート」を育成するため、学部学生全員がノートパソコンを必携している。そのため、学内の各建物を 1Gbps の光ケーブルで結び、各実験室、教室等には 100BASE-TX のメタル線が敷設されており、学内に設置してある情報コンセントの数は、約 10,000 口にもおよんでいる。また無線 LAN が利用でき、いつでもどこでも

ネットワークが利用できるユビキタスコンピューティング環境を実現している。情報サービスに関連する施設は次の a 項から e 項に示すとおりである。

a. ネットワークセンター

- ・ネットワークセンターには、約 100 台のサーバーを設置し、ネットワークに関するすべての管理を行っている。本学のネットワークは、平成 6 年に WIDE(Widely Integrated Distributed Environment)プロジェクトに参加してインターネットに接続している。WIDE 接続回線 100Mbps の専用光ケーブルで大手町にある WIDE の拠点と接続するとともに、OCN 接続回線 100Mbps の専用線を導入しており、学外とのアクセスに快適なネットワーク環境を学生および教職員に提供している。
- ・学内の教育系ネットワークを快適かつ円滑に利用できるよう、サーバ室のセンターノードスイッチを中心に各建物に敷設した光ケーブル(GbE: Gigabit Ethernet)や基盤ネットワーク通信機器のサポートを行っている。
- ・電子メール、ウイルス駆除、ファイル共有、VPN接続サービス、ホームページ開設サービス等の各種サービスを提供している。
- ・学内ネットワーク全般の管理、メンテナンス、ソフトウェアのアップグレードなどを行っている。

b. メディアロビー

- ・ビデオ、音楽、CG・デザイン制作等のシステムを搭載した最新コンピュータおよびビデオカメラやデジタルカメラ、DVDシステム等の各種機器を設置し、学生は自由に利用できる。
- ・学生が制作した作品を広くアピールするため、メディアロビー内にプレゼンテーションシステムを設置している。
- ・ノートパソコンコーナーを設置している。

c. プリントショップ

- ・高性能カラープリンタ2台、モノクロレーザープリンタ24台を設置しており、学生は、レポートや資料をA4用紙300枚まで印刷できる。

d. インターネットカフェ

- ・情報コンセント付の机を110席設置し、学生は飲み物を飲みながら、自由にインターネットを楽しむことができる。

e. PC サポートセンター

- ・ノートパソコンの故障への対応や貸出しサポートサービスを行っている。

③片柳研究所 (Katayanagi Advanced Research Laboratories KARL)

- ・片柳研究所は、大学附置の研究所として片柳学園の研究、教育環境の一層の充実をはかる「教育と研究の統合化及び強化計画」の一環として平成 12 年 4 月に発足し、平成 15 年には片柳研究所棟を竣工し、特色ある先端性の確保、研究の活性化、産学官の連携、人材育成と地域産業への貢献および国際化等多面的な対応の具現化に大きく踏み出した。
- ・また、研究所内の各施設まで 1Gbps 以上の光ケーブルを敷設している。情報コンセント数も約 3,200 口用意しており、最新のネットワーク情勢にも柔軟に対応できる環境を用意している。
- ・4 階に設置しているコンテンツテクノロジーセンターは、メディア学部生と大学院学生および民間企業の研究者が、映像、音楽、音響表現の新たな可能性を追究していくための

研究スペースとして活用しており、ハイレベルなメディア表現を支える高性能コンピュータや、マルチメディア関連機器、最新のアプリケーションソフトウェアなどを導入している。

- ・11階にはユビキタスIT研究センターを設置し、コンピュータサイエンス学部生と大学院学生および民間企業の研究者が、ネットワークを活用した最先端のIT研究を行っている。
- ・地下1階および6階には、バイオテクノロジーとナノテクノロジー関連の研究支援を目的としたバイオナノテクセンターを設置している。同センターには、ナノレベルの微細加工装置やタンパク質の機能解析装置、電界放出型電子顕微鏡など、国内研究施設としては他に類を見ない充実した最新鋭の機器・設備を揃え、バイオナノテクノロジー分野における包括的、統合的な研究・開発を行うことができる。
- ・これらの機器、設備は、バイオニクス学部学生の卒業研究および大学院学生における研究に用いられている。さらに本学と共同研究を手がける企業や地域の研究機関、大学研究者にも開放され、幅広いバイオナノテクノロジー研究の推進拠点として活用されている。

④ 体育施設

体育施設については、表9-1-4に示す。

表9-1-4 体育施設一覧

グラウンド (運動場)	8コース×400mのトラック、観客席は2,000名収容可能	
多目的グラウンド (第二運動場)	60 m×108mの広さで授業やサークル活動に利用	
テニスコート	オールウェザーコート5面	
プール	50m×8コース	
弓道場	弓道部専用の練習場	
体育館	アリーナ	60 m×40m、観客席は約1200名収容可能
	ボーリング場	8レーン (1ゲーム200円)
	稽古場	卓球部、少林寺拳法部、テコンドー部、空手部等の練習スペース
	トレーニングルーム	各種トレーニング機器を設置

(2) 9-1の自己評価

- ・本学のミッションである「①学生の個性を重視した教育の実施、②先端技術教育による実社会に役立つ技術者や多様なエキスパートの育成、③ICTに精通した技術者や多様なエキスパートの育成、④外国語（特に英語）の国際的人材育成のための実践教育」を実践する教育環境として本学の施設、設備は適切な整備、維持、運営をしている。
- ・広大なキャンパスのいたる所に緑と水とアートが点在し、充実した施設と美しい庭園との調和の取れたキャンパスを実現しており、基本理念の一つである「理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備」を実現している。

(3) 9-1の改善・向上方策（将来計画）

- ・本学の基本理念である「理想的な教育研究を行うための理想的な環境整備」を実現し、継続していくためには、今後も学生のニーズに対応した施設設備を適切に整備していく必要がある。

9-2 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

《9-2の視点》

9-2-①施設設備の安全性が確保されているか。

9-2-②教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

(1) 9-2の事実の説明（現状）

- ・平成15年3月に完成した片柳研究所棟は、耐震性、耐火性に配慮されたつくりになっており、また高層部に設置されている3台のエレベーターはすべて非常用エレベーターとして設計されており、屋上には緊急救助用のスペースも設けている。
- ・大学評議会のもとに、「環境・安全委員会」を設置し、環境保全、安全保持に関して審議している。
- ・本学は八王子市の広域避難場所に指定されており、本学学生を対象とした避難訓練ならびに、職員を対象とした消防訓練を実施している。
- ・各建物の消防設備定期点検を年に2回実施している。
- ・各建物の非難口を「学生便覧」にまとめ、学生や教職員に配布し、周知している。
- ・実験室での事故を防ぐため、「安全のてびき」を作成し、新入生に配布、周知している。
- ・学生の創作意欲の高揚等を目的として、研究、授業および開放時間には学生が自由に利用することができる施設「実験工房」を整備している。また、設備の安全な利用、危険防止の観点から工作機器を利用する学生を対象に「使用者資格講習会」を実施し、安全教育実習を行っている。
- ・大学設置基準上必要な校舎等のほか、学生が充実した大学生活を送れるように、本学独自の様々な施設を設置している。飲み物を飲みながらインターネットを楽しむことができる「インターネットカフェ」、日本で唯一大学に設置されている「ボーリング場」、複数のレストランやコンビニエンスストアを集めた「フーズフー」などがある。フーズフーのカフェテラスからは、美しい庭園を望むことができ、学生の休息の場として高い人気を集めている。
- ・JR八王子みなみ野駅、八王子駅、学生会館から大学キャンパスまでスクールバスを運行している。朝7:28八王子みなみ野駅発から、夜22:10キャンパス発迄をスクールバスの基本運行時間(所要時間5分)とし、またJR八王子みなみ野駅には日中誘導員を配置し、スムーズな運行およびバスターミナルでの整列マナーの向上に努めている。
- ・車椅子でキャンパス内の移動がスムーズに行えるよう、スロープおよびエレベーターを各所に設置している。

(2) 9-2の自己評価

- ・最新鋭の施設、設備を備え、かつ緑が豊富で、綿密に設計されたこの美しいキャンパスは、理想的な学生生活の場として充分その役割を果たしていると自負している。
- ・このキャンパスの美しさ、快適さから、大学周辺の住民が気軽に学内を散策するなど、地域社会からも好評を得ている。

- ・様々な施設、設備を整える一方、それらを安全に運営、利用するよう常に注意する必要があると考える。

(3) 9-2の改善・向上方策（将来計画）

キャンパスの美しさや快適さを保ち、学生にとってさらに有益な施設、設備を整備し、提供していこうと考える。

[基準 9 の自己評価]

本学の基本理念の一つである「理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備」が実現できていると考える。大学設置基準を十分に満たす校地、校舎の中に、「東京工科大学のミッション」を実現するための様々な施設、設備、装置を整備、維持、運営している。また、利用者は学生教職員のみならず、企業や諸団体等にも開放しており、その活用状況も適切であると考えている。

[基準 9 の改善・向上方策（将来計画）]

この理想的な環境を維持するだけにとどまらず、さらなる発展、効率的な運用を目指し、組織的な取組みを推進していく。